

# 第1章 地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化

## 第1節 環境活動と地域コミュニティ活性化の好循環

### 北九州エコライフステージ

北九州エコライフステージでは、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心にして、エコライフの浸透を目指し、様々な環境活動に取り組んでいます。平成19年度は、「世界の環境首都を目指して～温暖化から地球を守ろう!」をテーマに約46万人の市民が参画し、158行事を実施しました。

#### 【主な行事】

##### ●エコスタイルタウン（平成19年10月20日～21日、北九州市役所横広場）

環境活動に取り組む団体が環境にやさしいライフスタイルを提案するための出展や、マスメディアの参画による音楽やトークショーなどのステージイベントが行われました。

平成19年度は86団体、13万人の市民が参加しました。環境分野のみならず、福祉分野、国際分野で活躍する団体が集結して、持続可能な社会づくりを進めるきっかけとなりました。

##### ●地域・テーマ別行事

市民の意識向上、環境活動の拡大、ネットワークの拡大等を図るため、市内の環境団体の活動を紹介するパネル展示会「わたしたちのエコスタイル展」を市内各所で実施することにより、多くの市民にPRすることができました。



エコスタイルタウンの様子

### 北九州市民環境パスポート事業

環境パスポート（略称：カンパス）事業は、市民が楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するポイントプログラムです。現在は、IDカードを用いた「カンパスカード事業」とノーレジ袋運動を中心とした「カンパスシール事業」を展開しています。

#### ●カンパスカード事業

カンパスカードは、ポイント数、環境行動及びその評価をWeb上のグリーン通知表という指標で確認することができます。平成19年6月からは、新日鉄エンジニアリング(株)と本市が協力して実施する「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実験事業」において、家庭から出る生ごみを分別・持参すると、ポイントが取得でき、たまったポイントはエコグッズに交換できる事業を実施しています。

#### ●カンパスシール事業

平成18年12月から全市共通ノーレジ袋ポイント事業「カンパスシール」を展開しています。参加店で概ね200円以上の買い物をした際に、レジ袋を辞退すると、シールが1枚もらえる仕組みで、20ポイント分のシールを参加店共通の50円の割引券として利用できます。平成20年3月のお断り率は18.3%で、お断り率20%を目指して取組を進めています。

※お断り率=カンパスシール発行枚数÷レジ通過客数×100



カンパスカード



シール



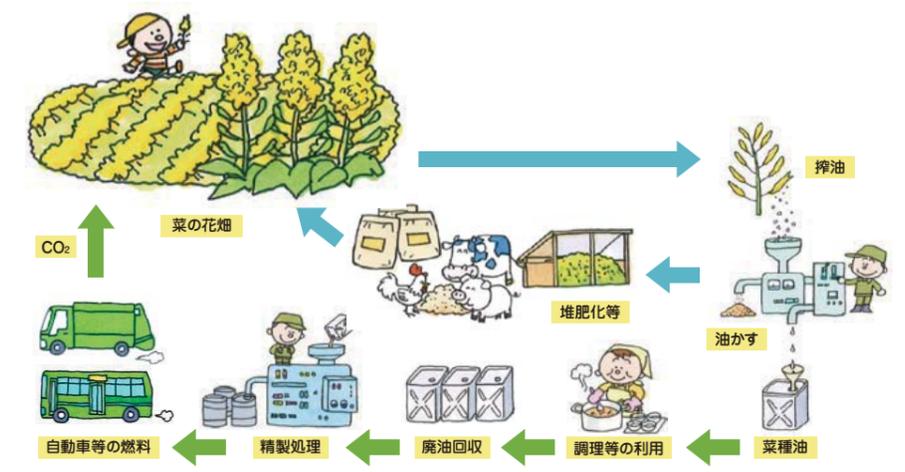
台紙

### 菜の花プロジェクト

平成19年度より、菜の花を栽培し、搾油し、食用油として利用した後、廃食用油を回収し、BDF（バイオディーゼル燃料）などにリサイクルし、再び活用する菜の花プロジェクトを実施しています。



#### ◆菜の花プロジェクトのエネルギー循環イメージ図



### 八幡東田グリーンビレッジ構想

平成13年、八幡東田地区において、環境を主要テーマに掲げた「ジャパンエキスポ北九州博覧祭2001」が開催され、様々な環境配慮の取組を実践しました。この成果を活かして、環境配慮のまちづくりを進めるため、平成16年3月に、「八幡東田グリーンビレッジ構想」を取りまとめました。

#### 【これまでの取組】

- 環境配慮のまちづくりを支える基盤整備
  - ・東田エコクラブハウスの建築 (H16.3)
  - ・カーシェアリング事業 (H17.1)
  - ・天然ガスコジェネ発電電力の域内利用 (H17.2)
  - ・環境共生住宅の建設 (H18.12)
- 住民参加によるまちづくり
  - ・市民による花壇づくり活動
  - ・エコドライブ実践教室
  - ・八幡東田まちづくり連絡会の活動

#### 実施計画推進プログラム

共有価値の創造	1 北九州市民環境パスポート事業
	2 サイクル特区の構築
	3 カーシェアリングシステムの構築
	4 バス・トラック等大型交通（物流）の効率活用
	5 エコ・ドライブ支援プログラム
	6 アロハ・プロジェクト
	7 ローカルルールづくり
循環型エリアマネジメントシステムの構築	8 都市エネルギー管理システムの構築
	9 廃棄物マネジメント・システムの構築
	10 再生可能燃料（バイオエタノール混合ガソリン）の利用促進
街並み形成	11 サステイナブル計画の策定
	12 街並み形成軸と歩行者ネットワークの構築
快適な暮らしの創出	13 東田グリーンビレッジ植林事業
	14 （仮称）北九州オープン・エア・ミュージアム計画
	15 微気候形成プロジェクト
	16 環境共生型住宅整備計画の策定
協働を促進する拠点づくり	17 シビック・コンビニエンス・センターの設立
	18 安全・安心のネットワークづくり
	19 「地球温暖化対策地域協議会」の立ち上げ
	20 東田エコクラブを拠点としたパートナーシッププログラム
取組の発信	21 交流の場と環境教育の場の提供
	22 サステイナビリティレポートの市民評価システムの導入
	23 東田サステイナビリティレポートの整備
	24 まちづくりPR

### わがまちの環境自慢

わがまちの環境自慢は、『まちの誇れる環境の「たから」と「ちから」!』をテーマに、残したい自然・風景や、環境活動を頑張る人などを発掘・認定し、PRしていくもので、市民提案に基づいて平成17年度から実施しています。

平成19年度は、市民から406件という多くの応募をいただき、224件を認定しました。認定数は、平成17年度からの累計で693件となりました。

認定された環境自慢は、ホームページや市内の図書館などで紹介しています。



わがまち環境自慢シンボルマーク



わがまち環境自慢認定証



## まち美化に関する啓発

平成3年から、5月30日～6月30日を「クリーン北九州まち美化キャンペーン」として、まち美化活動や啓発活動を行っています（平成19年度 参加人数：29,955人、収集量77.6t）。また、平成7年から、10月1日から7日までを「清潔なまちづくり週間」と定め、平成8年から、10月の第一日曜日を「市民いっせいまち美化の日」とし、地域の道路、公園、河川、海浜等を清掃しています（平成19年度 参加人数：90,103人、収集量245.8t）。さらに、地域・学校・企業・ボランティアを代表する39団体で構成された「クリーン北九州」百万市民運動推進協議会（平成元年発足）では、「15分間清掃」、「ポイ捨て防止」、「ごみの持ち帰り」の3つの運動の普及啓発活動を実施しています。

「北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例（まち美化条例）」に基づき選任され、地域のまち美化を牽引する役割を担う「まち美化推進員」は、平成20年3月31日現在160人となっています。



## ごみの減量化・資源化に関する啓発

### ●エコライフプラザ

NPO法人に企画・運営を委託し、エコ商品の展示、販売、リユース品の販売、エコライフに関する情報の提供、毎日の生活に役立つ環境講座などを実施しています。

### ●施設見学

一般市民や小・中学生に、新門司工場、日明工場、皇后崎工場、日明・本城かんびん資源化センターの見学会を実施しています（平成19年度 施設見学者数：14,701人）。

### ●大都市減量化・資源化共同キャンペーン

平成4年度から、政令指定都市と東京23区の清掃事業担当部門が連携してキャンペーンを実施しています。平成19年度は、オリジナルポスターとペットボトル再生系を使用したマイバッグを製作し、ポスターは公共施設等に掲出、マイバッグはレジ袋削減に取り組んでいる市民に抽選で配布しました。

### ●分別大事典

ごみの分類や出し方がわかる目次兼分別一覧表や出し方に迷うものが簡単に調べられる50音順の分別早見表等を掲載した冊子を区役所や市民センター等で配布しています。

### ●かえるプレス

リサイクルに関する情報の提供や、環境局の取組を紹介するために、年2回情報誌を発行し、各戸に配布しています。

### ●空き缶プレスカー

小学校等に空き缶プレスカー「カンガルー号」を派遣し、プレス実演による3R啓発を行うとともに、回収した缶を資源化しています（平成19年度 運行回数：82回）。

## 環境活動に関する各種表彰

地域の環境活動に積極的に取り組んでいる市民・NPO、事業者等のやる気を支え、長期的な取組に効果的なインセンティブを付与するために各種の表彰を行っています。

### 【表彰の種類】

- ・北九州市環境賞
- ・エコドライブコンテスト北九州地区大会表彰
- ・北九州市3R活動推進表彰
- ・産業廃棄物優良処理業者
- ・環境衛生優良地区（市長表彰状）
- ・環境衛生地区組織育成功労者（市長感謝状）
- ・北九州市まち美化協力功労者（市長感謝状）
- ・校区まち美化レポート表彰（市長感謝状）
- ・北九州市まち美化貢献者（環境局長感謝状）

## 集団資源回収団体奨励金制度・まちづくり協議会地域調整奨励金制度

町内会、老人会、子ども会などの地域の市民団体に対し、古紙の回収量に応じて奨励金を交付しています。（右の表参照）

また、古紙回収未実施地域の解消、回収促進のPRなど活動地域内の古紙回収の調整を継続して行うまちづくり協議会に対し、集団資源回収団体奨励金とは別に、地域調整奨励金を交付しています（奨励金 2円/kg〔活動地域全体の回収量〕）。

奨励金	広場やごみステーションを利用した方法	7円/kg
	回収業者が戸別回収を行う方法	5円/kg
登録団体数（平成19年度）	1,672団体	
古紙回収量（平成19年）	32,835トン	

## 生ごみコンポスト化容器・電気式生ごみ処理機設置助成制度

家庭用生ごみコンポスト化容器や、家庭用電気式生ごみ処理機を設置する市民に対し、購入費用の一部を助成しています。

	生ごみコンポスト化容器	電気式生ごみ処理機
助成金額	1基（セット）あたり3,000円	購入価格（消費税等を除く）の2分の1で限度額20,000円（千円未満の端数切捨て）
平成19年度助成件数	4,685基（セット）	372台

## 公害防止に取り組む事業者への融資・助成

- 北九州市公害防止資金融資制度：市内の中小企業者に対して、産業公害対策の融資、低公害車購入の融資をしています。（融資実績：昭和43年度から304件（30億1,820万円））
- 北九州市環境改善事業施設等整備助成制度：民間事業者が最新規制適合車等へ代替を行う場合に、購入する車両本体価格の3%を助成しています。（平成19年度トラック1台の代替に助成）

## 省エネルギー診断

事業者を対象に、エネルギー使用量や設備管理に係るアンケート、現地調査を実施し、現状を認識してもらい、省エネ方策をアドバイスするもので、平成19年度は、ホテルや病院、一般事務所などの125事業所にアンケート調査を実施し、このうち5事業所に現地診断を実施した結果、設備の運用改善等を実施すれば、135トン〔スギの木約10,000本（＝森林面積に換算で約12ヘクタール）が一年間に吸収する二酸化炭素排出量に相当〕の削減が見込まれることがわかりました。

## 環境首都コンテスト

全国環境NGO（12団体）で構成される「環境首都コンテスト全国ネットワーク」が主催する第7回「日本の環境首都コンテスト」（66自治体が参加）で、本市は、2年連続総合第1位となりました。

同コンテストは、「地球温暖化防止・エネルギー対策」、「ごみの減量化」などの15分野と先進事例について、自治体の取組を点数化して評価するもので、本市は、1,020点中744点を獲得しました。

本市は、総合第1位に加え、上記の2分野や、「まちづくりと一体化した交通政策」、「自然環境の保全と回復」など7分野でトップでした。

今後も、世界の人々から「世界の環境首都」として認められるよう、より一層の取組を進めていきます。



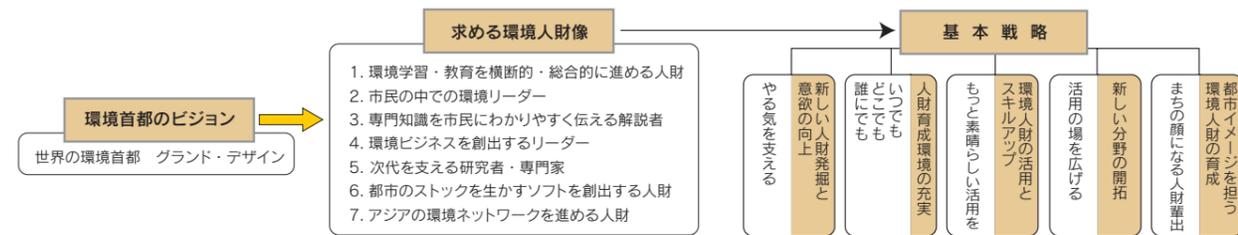
第7回「日本の環境首都コンテスト」表彰式  
（平成20年3月）

## 第2節 優れた環境人財の育成

### 北九州市環境人財育成総合計画の推進

平成18年10月に今後5年間の環境人財育成が効果的かつ適切に実施されることを目的とし策定しました。本計画においては、人財育成のための施策の重点化と優先順位を設定し、育成の効率化と実効性を高めるとともに、人財育成に携わるすべての関係者の連携と調整を図ることとしています。

◆北九州市環境人財育成総合計画 全体図



### 北九州市環境ミュージアムを拠点とした環境学習の推進

市民のための本格的な環境学習・活動交流の総拠点となる「北九州市環境ミュージアム」を平成14年4月に八幡東田地区に開設しました。館内には北九州市の公害克服の歴史や地球環境問題、それを防止するための環境技術、環境にやさしいエコハウスのモデルなどを展示しており、これらを施設インタープリターが詳しく紹介しています。

【利用者実績】			(人)
H17	H18	H19	
113,229	129,545	132,831	

### 北九州子どもエコクラブ活動の推進

「子どもエコクラブ」は、子どもたちが自主的に環境に関する学習や活動を行うクラブのことです。平成19年度は134クラブ、19,165名の幼児から高校生が活動しました。北九州子どもエコクラブは、創設以来会員数が常に全国で1～3位であり、クラブ同士の交流やサポーターの育成に力を入れている点が評価され、平成17年3月に行われた子どもエコクラブ全国フェスティバルにおいて、環境大臣から感謝状を授与されました。



### 環境教育副読本による環境学習の推進

幼児から中学生までのそれぞれの発達段階に応じた環境教育副読本を作成しています。

幼児用	コスモスほしからきたベルル(環境絵本) (汎用版及び大型版、点字本と音声CDセット)		
小学生用	低学年	地きゆうはみんなのおともたち	教師用 指導書
	中学年	もつと知りたいみんなの地球	
	高学年	みんなで守ろうきれいな地球 別冊公害克服編「青い空を見上げて」	
中学生用	未来につなごうゆたかな地球		

### 九州環境技術創造道場

道場で育成する人財は、廃棄物分野での幅広いかつ実務的な専門知識を有する技術者です。講師陣には、本市エコタウンの有する人的ネットワークを活かして、国内でも有数の大学、民間企業等の技術者を招き、主に最終処分場について国内外の最先端の情報を取り入れた講義を実施しています。また、講師・受講生の討議、交流を実現するため講師陣と寝食をともにする合宿形式を採用しています。平成16年度から毎年開催され、これまでに86名が修了しています。

### 北九州市環境学習サポーター

北九州市環境学習サポーターは北九州市環境ミュージアムを拠点として市内全域で環境学習や環境活動をサポートする市民ボランティアです。公害克服の歴史、地球温暖化、新エネルギーなど様々な環境問題のテーマについて、実験やクイズ、ビンゴといった体験型形式で活動を行っています。また、「出張環境ミュージアム」として、環境教育プログラムを小学校や市民センターなどでも実施しています。さらに、ごみ処理工場や浄化センターのガイドとしても活躍しています。平成19年度の環境学習サポーター数は78名で、活動日数は312日、延べ活動人数3,157人でした。

### 北九州市自然環境サポーターの育成

自然環境サポーターとは、平成17年度から開始した養成講座の修了生で、自然に対する正しい知識や自然との上手なつきあい方などを習得した自然分野での市民応援団のことです。「北九州市自然環境保全基本計画」のリーディングプロジェクトとして、平成21年度までに約250名の北九州市自然環境サポーターの育成を図ることを目標としています。

平成17年度(第1期)	修了(認定): 56名
平成18年度(第2期)	修了(認定): 37名
平成19年度(第3期)	修了(認定): 66名

### 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進と国連大学・地域拠点(RCE)の認定

ESD(Education for Sustainable Development)とは、持続可能な社会を実現するための教育で、環境教育、人権教育などを含めた幅広い教育を総合的に進めるものです。また、教育は、学校のみならず、家庭、地域、職場などで、こどもから大人までを対象にしています。本市では、平成18年9月に、市民・NPO、学校、企業、行政等から構成された「北九州ESD協議会」(加盟団体51団体、平成20年1月現在)が設立されました。平成18年12月には、国連大学が全世界で進めているESD推進のための「地域拠点(Regional Center for Expertise:RCE)」に、世界22地域とともに認定されました。

平成19年度は、保育園と環境学習サポーターによるコラボレーション企画「光沢寺保育園エコ交流会」や、RCEペナン会議、韓国ESDスタディーツアーなど、国内外において活動を実施しました。



未来ハレル

北九州におけるESD活動のニックネーム

### 北九州市環境首都検定

北九州市では、北九州市独自の環境分野の検定を実施することによって、環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップ及び環境に関心を持つ市民の裾野を広げていきます。

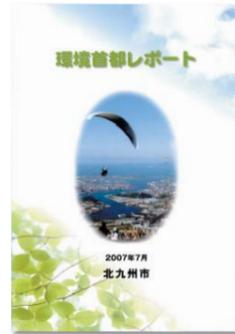
平成19年度は、「北九州市環境首都検定委員会」を発足し、環境首都検定を実施するにあたって課題整理を行いました。

### 第3節 環境情報の共有と発信

#### 世界の環境首都創造に向けた情報発信

「世界の環境首都」創造に向け、市民・NPO、企業等の協働による環境首都づくりの成果を国内外に情報発信することにより、「北九州市＝環境首都」の都市ブランドを確立していきます。

また、世界の環境首都としての市民の誇りや自信を高めることで、ビシターズ・インダストリーの振興にもつなげていきます。さらに、情報発信すべき成果を北九州エコライフステージの実施、インターネットによる環境情報ポータルサイト「エコライフネット」、環境首都レポート等により効率的に集約し、環境情報を積極的に受発信できる交流の場を構築しています。



環境首都レポート



エコライフネットのトップページ  
http://www.ecolife-net.jp/

#### あらゆる主体による環境政策への参加の推進

環境問題の現状、課題、取組などの環境情報を誰でも容易に入手できる体制を整備し、あらゆる主体が共に考え、行動し、成果を検証するなど環境政策への参加を進めています。

(取組例：北九州エコライフステージ実行委員会、フォローアップ委員会、北九州市自然環境保全ネットワークの会)

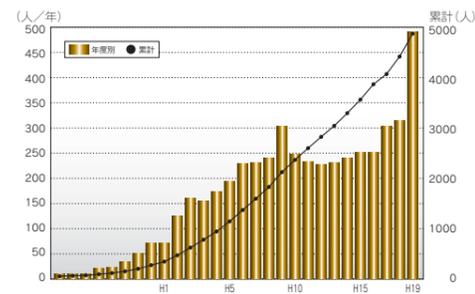
#### 環境情報の収集・整備・提供

信頼性のある環境情報が提供できるように収集・整備を進めています。(環境に関する年次報告書の作成と公表、環境局ホームページによる情報提供、環境測定データの速やかな情報発信、自然・生き物に関する情報の整備、エネルギー情報デスク)

### 第4節 国際的な連携・協働の推進

#### アジアの人財育成拠点形成

平成18年度から「アジアの環境人財育成拠点づくり」をめざして、年間400人、5年で2,000人の研修員受け入れの実現に取り組んでいます。国際研修員の受け入れは、(財)北九州国際技術協力協会(KITA)が中心となり、JICAや国内外の様々な機関から受託しています。また、市職員を技術協力の専門家として派遣し、現地で技術指導を行っており、これまでに130カ国から4,932人の研修員を受け入れ、カンボジア、中国、サウジアラビア等25カ国に128人の専門家を派遣しました。



KITAの研修受入実績

#### 諸外国との環境協力実績

大連市(中国)：ODAを活用した環境保全計画の策定を提案し、1996年に採択。友好都市として人材、技術交流を長年わたって実施。2008年3月には、コペネフィット省エネ汚染物質排出削減に関するワークショップを開催した。

天津市(中国)：日中国際資源循環トレーサビリティ実証実験事業を共同実施。

蘇州市(中国)：蘇州高新区に立地する企業から排出される廃棄物の有効利用促進の調査を実施。

青島市(中国)：日中エコタウン建設ワークショップを開催、また、青島市で建設中のエコタウンについて助言・提言を行った。

昆明市(中国)：デン池の水質改善を図るため、下水道分野の研修員を受け入れ、下水道運営手法や下水汚泥の有効活用の方策などの講義、視察を実施。

フフホト市(中国)：下水処理分野の研究員の受入、下水道事業運営手法や処理技術の講義、現場視察を実施

バンコク(タイ)：生ごみの堆肥化、資源化物の分別収集促進などを提案

スラバヤ市(インドネシア)：水環境改善のため、現地調査を実施し、提言をまとめるとともに、セミナー開催、スラバヤ市職員の研修受け入れを行った。

#### 都市間ネットワーク事業

##### ●東アジア経済交流推進機構環境部会

2004年に創設された「東アジア経済交流推進機構」の環境部会を運営し、環境情報の共有化や環境人材の育成に取り組んでいます。

2007年度は韓国・蔚山広域市で第3回環境部会が開催されました。

##### ●アジア環境協力都市ネットワーク

1997年12月に設立され、アジア地域の持続可能な開発の実現に向けて交流を行っています。



#### 環境国際ビジネスの推進

経済発展著しい中国、韓国に対しては、高い技術力を持つ地元民間企業による環境ビジネス参入支援を進めています。2005年には北九州環境ビジネス推進会(KICS)と大連市環境保護産業協会が友好団体締結を行いました。2007年は、中国蘇州・無錫へ視察ミッションを派遣し、市内から7社が参加しました。

#### 関係機関との連携

##### ●(財)北九州国際技術協力協会(KITA)

###### 〈2007年度の主な協力事業〉

- ・スリランカ国キャンディ市及びヌワラエリア市における水質改善のためのモニタリング研修事業
- ・大連市における省エネ・環境ビジネス展開可能性調査事業
- ・インドネシア・スマラン市環境教育指導者育成事業
- ・ベトナム国におけるCP導入と啓発活動を通じた環境改善事業

##### ●(財)地球環境戦略研究機関(IGES)北九州事務所

###### 〈2007年度の主な協力事業〉

- ・クリーンな環境のための北九州イニシアティブの運営
- ・第4回北九州イニシアティブ・ネットワーク会議の開催
- ・廃棄物管理施策に関する調査研究活動の実施 など